

二五六二番

里人の言寄せ妻を 荒垣のよそにや我が見む
憎くあらなくに

二五六三番

人目守る君がまにまに 我さへに 早く起きつ
つ 裳の裾濡れぬ

二五六四番

ぬばたまの妹が黒髪 今夜もか 我がなき床に
なびけて寝らむ

二五六五番

花細し 葦垣越しに ただ一目 相見し児故
千度嘆きつ